

## 第4節 赤坂頭無し遺跡の調査

**調査地点** 西伯郡大山町石井垣363-7ほか(調査対象地西側、Tr.7付近)  
西伯郡大山町石井垣342-5ほか(調査対象地東側、Tr.12付近)

**調査期間** 平成22年10月14日～平成22年11月22日

**調査面積** 446㎡

### 調査概要(第54～62図、表16・17、PL.28～35)

赤坂頭無し遺跡は東西長約350mと広範囲に亘るため、地勢はやや複雑である。ここでは説明の便宜上、調査対象地における現況の地形、調査結果により区分けし、区域ごとに概要を述べていくこととする。

調査対象地の東側から西側へ、次のように5の区域に大別した(第54図)。

- 1区：石井垣上河原遺跡(本章第5節参照)西側の斜面部から谷部。
- 2区：1区の谷部から立ち上がる緩斜面部から広い尾根部。
- 3区：広い尾根部西隣の急斜面部から大きな谷部。
- 4区：3区の谷部から派生した小谷を挟んだ支丘陵尾根部及び西側斜面部。
- 5区：谷部から立ち上がる緩斜面及び広い尾根部。

以下、順に調査成果の概要を述べる。

#### 1区

石井垣上河原遺跡西側の斜面部から谷部が該当する。斜面部は大きくカットされ、町道が南北方向に敷設されており、石井垣上河原遺跡との境界となる。調査対象地の標高は約63～67mである。地目は山林で、斜面部の北側隣地は整地され、墓地となっている。トレンチは、Tr.1・2・4・23・24の5本を設定した。

基本層序は、表土及び流土下に黒褐色系のⅡ層(クロボク)が厚く堆積する。斜面部(Tr.1)は風化小礫を含む火山砕屑物堆積層が、谷部(Tr.2・4・23・24)は浅黄橙色を呈する粘性の強い堆積が基盤層となる。谷部北側(Tr.4)では削平によりⅡ層は遺存せず、造成土下に基盤層が露出していた。

本区域では遺構及び遺物を確認せず、遺跡は現存しないと判断した。

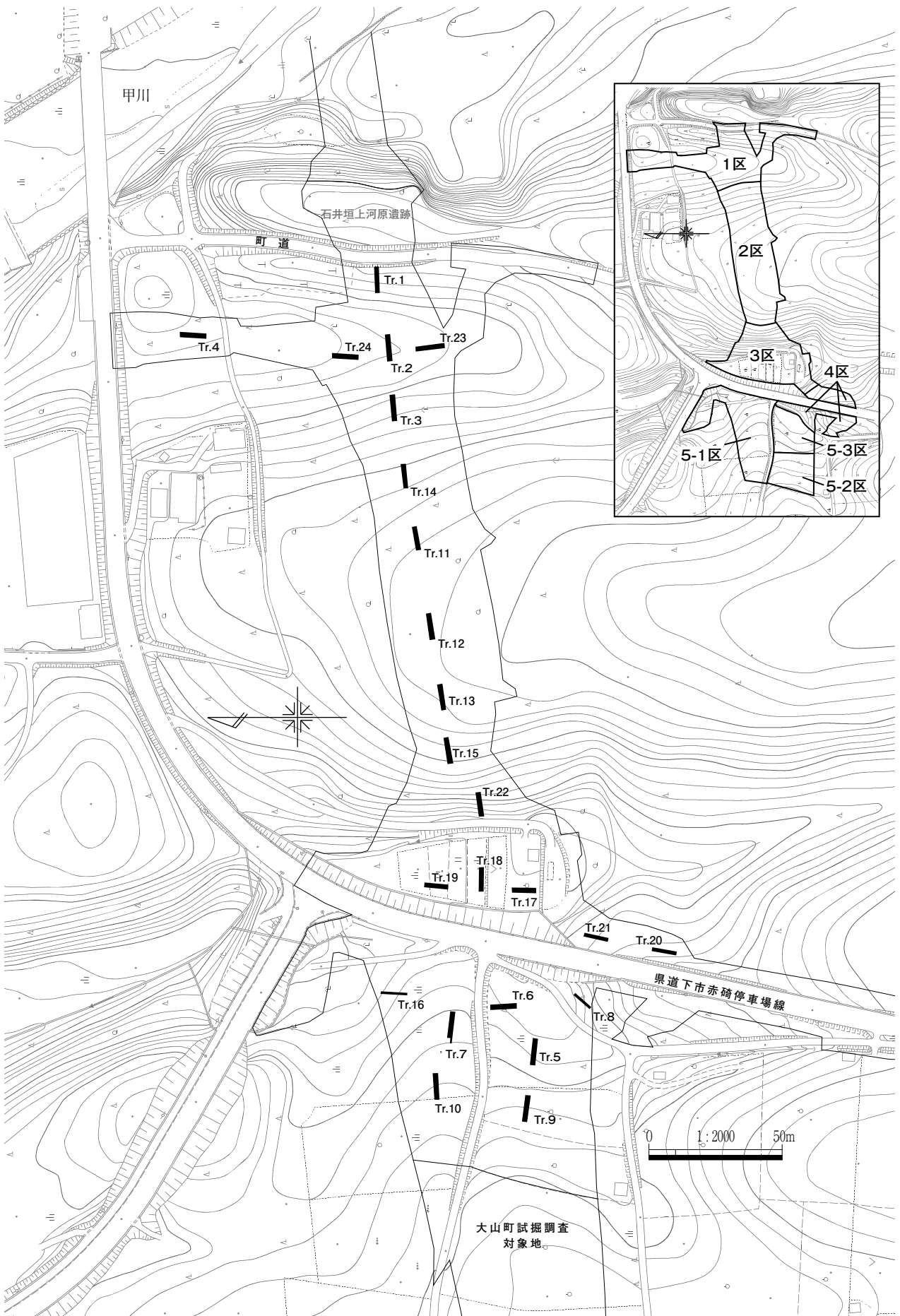
#### 2区

1区の谷部から立ち上がる緩斜面、広い丘陵尾根部が該当する。標高は約65～74m、地目は山林で、北側はスギ及びヒノキが植林されている。トレンチは、Tr.3・11～15の6本を設定した。

基本層序は、尾根部西端(Tr.15)を除き、表土下に黒褐色系(Ⅱ層)の堆積が安定してみられる。以下、漸移層(Ⅲ層)を経て始良丹沢火山灰(AT)に由来する堆積(V層)が基盤となる。一方、尾根部の西端部は傾向が異なり、クロボクはみられず樹木痕による攪乱、西側谷地形への流出に起因すると考えられる褐色系の堆積が確認できる。

遺物は表土(Ⅰ層)、Ⅱ層、尾根部西側の褐色系の堆積から出土した。古墳時代後期に帰属する土師器、須恵器が主体である。破片資料で詳細は不明だが、弥生土器、縄文土器も若干数出土している。

遺構は土坑、溝、ピットを確認した。Tr.15近辺は判然としないが、遺物出土状況から、遺構面はⅡ層中にあると想定される。遺構検出はⅡ層では色調の類似から困難で、Ⅲ層及びV層で行った。



第54図 トレンチ配置図

以上の成果により、本区域には遺跡が現存することを確認した。

### 3区

2区西側の急な斜面部、比較的大きな谷部からなる区域である。斜面部にTr.22、谷部にTr.17～19の計4本を設定した。標高は約58～71mである。地目は斜面部が山林、谷部が田地である。

斜面部のTr.22では、表土(I層)及び丘陵尾根部からの流出と考えられる堆積から若干数の遺物が出土したが、遺構は検出されなかった。谷部は、小規模な谷水田が最近まで営まれており、水田耕作に伴う旧耕作土、床土が遺存する。その下は礫群を主体とした河川性堆積物層となり、遺物の出土は無く、基盤層と判断した。水田の堆積から須恵器甕片が少数出土したが、遺構は確認しなかった。

以上、斜面部、谷部いずれも若干数遺物が出土したものの、遺物包含層、遺構共に確認しなかったため、本区域には遺跡が現存しないと判断した。

### 4区

本遺跡周辺は大小の谷が複雑に入り組んでおり、3区の谷が南、南西方向へ枝分かれし狭小な丘陵を形成している。本区域はその丘陵尾根部及びその東西斜面部に該当する。尾根部ほぼ中央には県道下市赤碕停車場線が縦走しているため、県道を挟み東側の尾根部にTr.20・21、西側斜面下位にTr.8を設定し調査を行った。標高は約63～69mである。地目は山林で、スギ・ヒノキが主に植林されている。

西側斜面下位のTr.8は黒褐色及び暗褐色を基調とした埋没谷に由来する堆積が基盤層となる。後述するが、鉄滓をはじめとする鉄関連遺物が多量に出土し、当該斜面部上位及び尾根部に製鉄炉の存在を示唆する結果を得た。尾根部東側のTr.20・21は、火山性碎屑物層が基盤となり、いわゆるソフトローム層(IV層)、始良丹沢火山灰に由来する堆積(V層)が認められた。

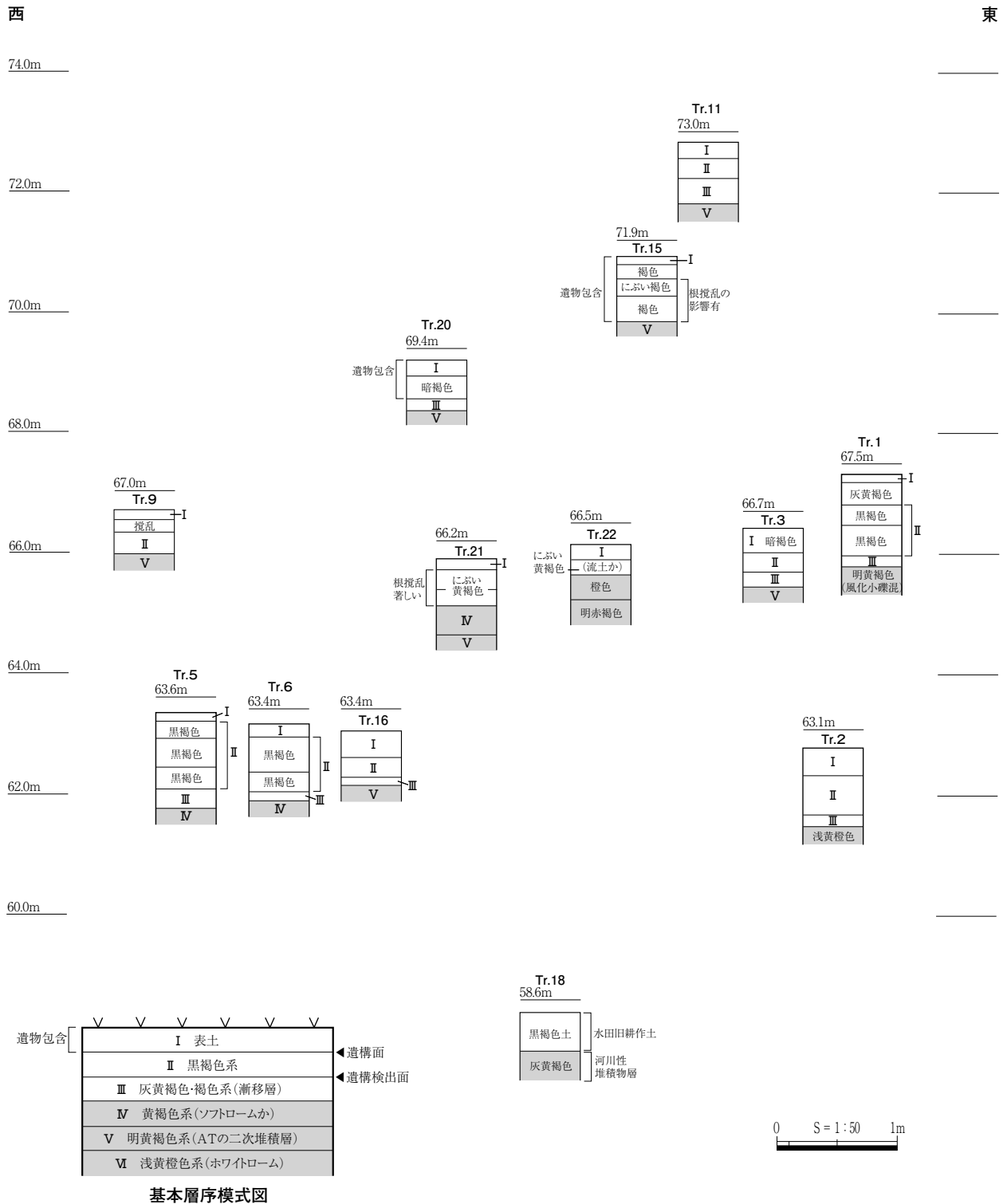
尾根部東側では縄文土器、弥生土器が表土中を中心に少数出土したが(第56図3～5)、遺構を確認しなかった。しかしながら、Tr.8の結果により尾根部西側縁辺部及び斜面部に製鉄関連と目される遺構・遺物を確認したため、それらと同一丘陵であることを重視し、尾根部東側も含めた形で遺跡が現存すると判断した。

3・4は縄文土器の深鉢である。3は胴部片で、外面に撚糸文が認められる。中期の資料か。4は突帯土器で、直立し尖り気味となる口縁端部直下に刻目突帯が貼り付けられる。5は弥生土器の甕で、緩く外反する口縁端部に刻目が施され、前期末葉から中期前葉の資料である。

### 5区

先述した3・4区の谷地形西側の斜面部と尾根縁辺部が該当する。本区域ほぼ中央には農道が東西に敷設されているが、この小道を挟み現況はやや異なる。説明の便宜上、ここでは本区域をさらに5-1～3区の三つに細分して述べる(第54図)。農道の北側(5-1区)は畑地、農道南側は谷寄りの斜面地(5-2区)が山林、その西側の平坦地(5-3区)が畑地となっており、地割に起因した土地利用の差異が確認できる。本区域より西側は畑地が広がる尾根部となるが、平成22年度に大山町教育委員会により試掘調査が実施され、一部を除き遺跡の現存が確認されている。

5-1区は、北寄りの緩斜面地に設置したTr.16で黒褐色系のクロボク(II層)を確認したものの、西側のTr.7・10では畑地開発に伴う変更のためII層の堆積は確認できず、表土下に始良丹沢火山灰に由来する基盤層(V層)が露出する。また、農業機械による掘削溝痕が多数認められ、後世の攪乱が著しい状態であった。このような現況のため遺物の出土は僅少であったが、Tr.7で古墳時代に帰属するとみられる竪穴住居跡を1棟検出した(SI1)。



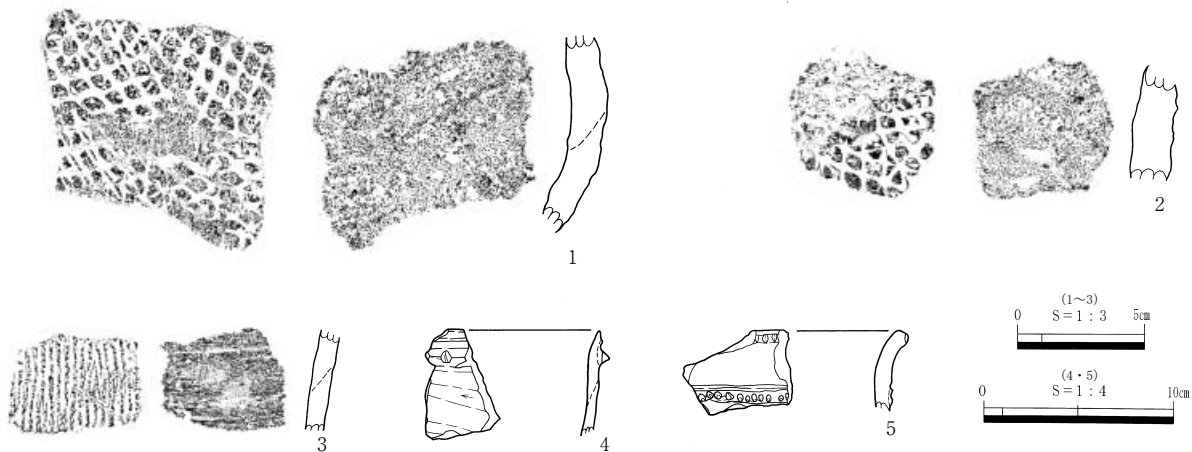
第55図 基本層序柱状図

5-2区ではTr.9を設定したが、先述した5-1区のTr.7・10と同様に大きな改変を受けており、従前の様相を留めていない状況であった。出土遺物は僅少で、遺構も確認しなかった。

5-3区ではTr.5・6を設定した。Tr.5はII層が比較的良好に遺存し、漸移層を経ていわゆるソフトローム層(IV層)が堆積する。Tr.6も、Tr.5と同様な堆積が一部残るが、農道側は大きくカットされ、標高の低い谷側に客土が盛られており、改変が著しい。攪乱土中から縄文土器(第56図1・2)が出土したが、遺構は確認しなかった。1・2は深鉢の胴部片で、同一個体とみられる。外面に縦位

表16 トレンチ一覧

| トレンチ  | 規模(m) | 面積(m <sup>2</sup> ) | 確認した遺構                        |              |       | 確認した遺物包含層 |             |      | その他出土遺物                        |                           |                 | 確認した遺構面数等 | 遺構検出層位 |   |
|-------|-------|---------------------|-------------------------------|--------------|-------|-----------|-------------|------|--------------------------------|---------------------------|-----------------|-----------|--------|---|
|       |       |                     | 遺構名                           | 出土遺物         | 遺構の時期 | 層位名       | 出土遺物        | 時期   | 出土層位名                          | 遺物名                       | 時期              |           |        |   |
| Tr.1  | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | -                         | -               | -         | -      |   |
| Tr.2  | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | -                         | -               | -         | -      |   |
| Tr.3  | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層                             | 土器片少数                     | 不明              | -         | -      |   |
| Tr.4  | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | -                         | -               | -         | -      |   |
| Tr.5  | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層                             | 土器片少数                     | 不明              | -         | -      |   |
| Tr.6  | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層・造成土                         | 縄文土器、<br>其他土器片            | 縄文時代<br>早期      | -         | -      |   |
| Tr.7  | 2×10  | 20                  | SI 1                          | 土師器          | 古墳時代  | -         | -           | -    | ①層                             | 弥生土器<br>又は土師器             | 弥生時代<br>・古墳時代   | 1面        | ⑦層上面   |   |
| Tr.8  | 1×8   | 8                   | 製鉄炉<br>関連遺構<br>(流出溝か)<br>④~⑬層 | 鉄滓等<br>鉄関連遺物 | 不明    | -         | -           | -    | ①~③層<br>(表土・耕作土)<br>⑰層又は<br>⑱層 | 鉄滓等<br>鉄関連遺物<br><br>土器片少数 | 不明<br><br>縄文時代? | 1面        | ⑰層上面   |   |
| Tr.9  | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層                             | 土器片少数                     | 不明              | -         | -      |   |
| Tr.10 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層                             | 土器片少数                     | 不明              | -         | -      |   |
| Tr.11 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層                             | 土師器・須恵器                   | 古墳時代<br>後期      | 1面        | Ⅲ層上面   |   |
| Tr.12 | 2×10  | 20                  | SD 1                          | -            | 不明    | -         | -           | -    | ①層<br>(表土)                     | 土師器・須恵器                   | 古墳時代<br>後期      | 1面        | ⑨層上面   |   |
|       |       |                     | SK 1                          | 須恵器・土師器      | 古墳時代  |           |             |      |                                |                           |                 |           |        |   |
|       |       |                     | P 2                           | 土器片少数        | 古墳時代? |           |             |      |                                |                           |                 |           |        |   |
|       |       |                     | P 3                           | 土器片少数        | 古墳時代? |           |             |      |                                |                           |                 |           |        |   |
| Tr.13 | 2×10  | 20                  | P 1                           | -            | 不明    | ③層        | 土師器         | 古墳時代 | ①・②層<br>(表土・攪乱土)               | 土師器・須恵器                   | 古墳時代            | 1面        | ④層上面   |   |
| Tr.14 | 2×10  | 20                  | SK 2                          | -            | 縄文時代か | -         | -           | -    | ①層・攪乱土                         | 土器片少数                     | 不明              | 1面        | ④層上面   |   |
| Tr.15 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | 褐色土       | 土師器・<br>須恵器 | 古墳時代 | I層(表土)<br>にぶい褐色土<br>褐色土        | 土師器・須恵器                   | 古墳時代            | -         | -      |   |
| Tr.16 | 1×8   | 8                   | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | -                         | -               | -         | -      |   |
| Tr.17 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | 須恵器片少数                    | 古墳時代            | -         | -      |   |
| Tr.18 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | 黒褐色土<br>(旧耕作土)            | 土器片少数           | 不明        | -      | - |
| Tr.19 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | 土器片少数                     | 不明              | -         | -      |   |
| Tr.20 | 15×10 | 15                  | -                             | -            | -     | 暗褐色土      | 土器片少数       | 不明   | I層(表土)                         | 縄文土器、<br>弥生土器             | 縄文時代<br>弥生時代    | -         | -      |   |
| Tr.21 | 15×10 | 15                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層(表土)                         | 縄文土器、<br>其他土器片            | 縄文時代            | -         | -      |   |
| Tr.22 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | I層(表土)                         | 土器片少数                     | 不明              | -         | -      |   |
| Tr.23 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | -                         | -               | -         | -      |   |
| Tr.24 | 2×10  | 20                  | -                             | -            | -     | -         | -           | -    | -                              | -                         | -               | -         | -      |   |
| 面積合計  |       | 446                 |                               |              |       |           |             |      |                                |                           |                 |           |        |   |



第56図 Tr. 6・20・21出土土器

のポジティブな楕円文が施される押型文土器で、内面調整は粗雑なナデが施される。高山寺式段階に相当する資料と考える。

調査の結果、5-1区ではTr.7において遺構(SI1)を検出し、遺跡の現存を確認した。ただ、5-2区を含め畑地開発による改変が著しく、出土遺物も極めて少数であったため、5-1区のTr.10より西側及び5-2区は遺跡が現存しないと判断した。5-3区は、遺物の出土は若干数あったもの

の遺構及び遺物包含層を確認せず、造成により旧態を留めない箇所も認められたため、遺跡は現存しないと判断した。

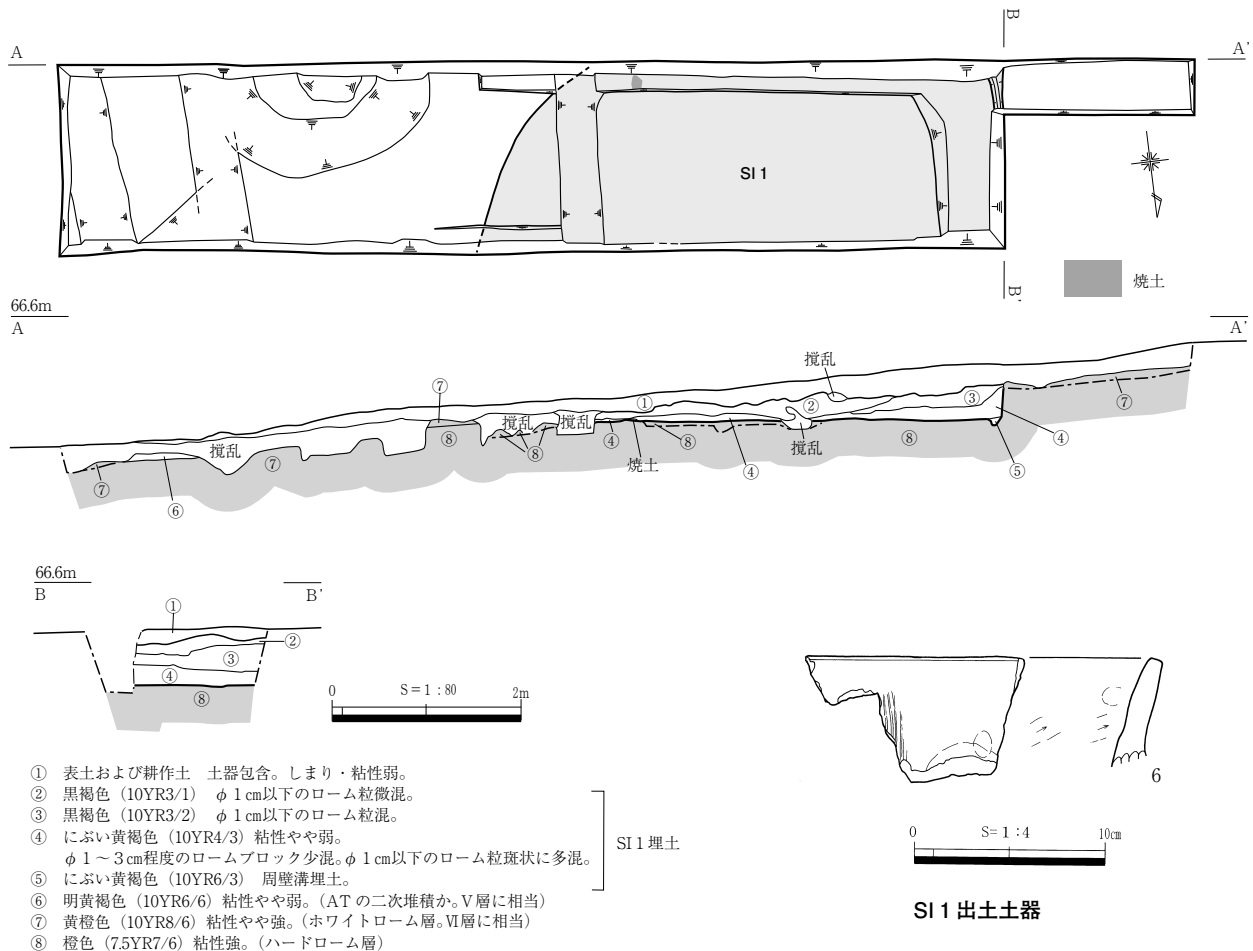
以上、調査対象地を5つの区域に分け、調査の概要を述べた。今回の確認調査範囲は、遺跡地図に周知の埋蔵文化財包蔵地として「赤坂頭無し遺跡」と登録されていたため、「赤坂頭無し遺跡」の名称を用いた。既述のとおり調査の結果、3区の大きな谷を隔てて東側(2区)と西側(4・5区)に遺跡が現存することを確認した。2区と4・5区は、大規模な谷により隔てられているという地形的な要素に加え、調査成果から窺える遺跡の内容についても連続性は少ないことが想定された。そこで、地形に従い3区の谷より東側、すなわち2区を従来のとおり「赤坂頭無し遺跡」とし、谷の西側に位置する4・5区については、5区が西に隣接する大山町実施の試掘調査地と同一丘陵上であることを勘案し、試掘調査地の呼称に倣い「赤坂小丸山遺跡」<sup>あかざかこまるやま</sup>とした。以後、両遺跡はこの呼称に従い、平成23年度以降に本発掘調査を実施することとなった。

次に、遺構を確認したトレンチ及び出土遺物の詳細について述べることにする。その他のトレンチにおける調査結果概要については、トレンチ一覧表(表16)を参照いただきたい。

## 5区

### Tr. 7 (第57図、表17、PL.28・35)

丘陵尾根部の東側縁辺に設定した。表土(①層)下は始良丹沢火山灰(AT)の二次堆積層(⑥層)、乳



第57図 Tr. 7 及びSI 1 出土土器

白色を呈するいわゆるホワイトローム(⑦層)といった基盤層が露出する。その他では、畑地に伴うトレンチャーによる掘削溝痕が目立った。

トレンチ西半において、竪穴住居跡(SI1)を検出した。トレンチ南西側を一部拡張したところ、周壁溝を確認したため竪穴住居跡であることが判明した。掘方の上半を後世の削平により失うが、西側は遺存状態が比較的良好で、検出面からの深さは40cm程度ある。現状では平面形ははっきりしない。埋土色調は上層(②・③層)が黒褐色、下層(④層)がにぶい黄褐色を呈する。また、トレンチ南側に設定したサブトレンチ内において、焼土面を確認した。遺物は、埋土上層で甑形土器(6)が出土した。下層を中心とした未掘箇所には多くの破片が含まれているものと思われる。他に出土遺物は認められなかったため6の年代観を用いると、本遺構は古墳時代前期に帰属する可能性が考えられる。

## 4区

### Tr.8(第58図、PL.29)

狭小な丘陵西斜面の中腹に設定した。表土(①層)下に堆積する②・③層は造成土及び耕作土の可能性があるが、判然としない。⑭～⑯層は埋没谷の堆積と思われ、黒褐色及び暗褐色を呈する。⑭層付近において時期不明の土器小片が出土したが、樹木根による攪乱もあり明確に本層からの出土かははっきりしない。下位の堆積である⑰～⑱層から遺物が出土しなかったため、掘削をここまでにとどめた。火山性碎屑物層等、明瞭な基盤層は本トレンチでは確認していない。

表土掘削時から鉄滓をはじめとする鉄関連遺物が多数出土し、トレンチ北東側の④～⑯層に至ると焼土・炭化物粒の混入が目立つようになり、より多数の鉄関連遺物を包含する。鉄関連遺物の中には炉底塊片が含まれ、至近に製鉄炉が存在する可能性が高い。サブトレンチにより土層断面を確認すると、⑰層を溝状に掘り込む形で⑱層が確認でき、当層には鉄関連遺物が特に密に含まれる状況であった。⑱層堆積後、④～⑭・⑯層がその上に堆積する様子が確認できる。このことから、平面的な検出を待たなければならないが、溝状に掘り込まれた⑱層などは炉に付随した流出溝の可能性を考える。つまり、斜面上位に築かれた炉から、谷側へ滓等を廃棄するために営まれた可能性がある。

④～⑯層において鉄関連遺物以外の出土遺物が無かったため、一連の製鉄炉関連と目される堆積の帰属時期は現時点では不明である。

## 2区

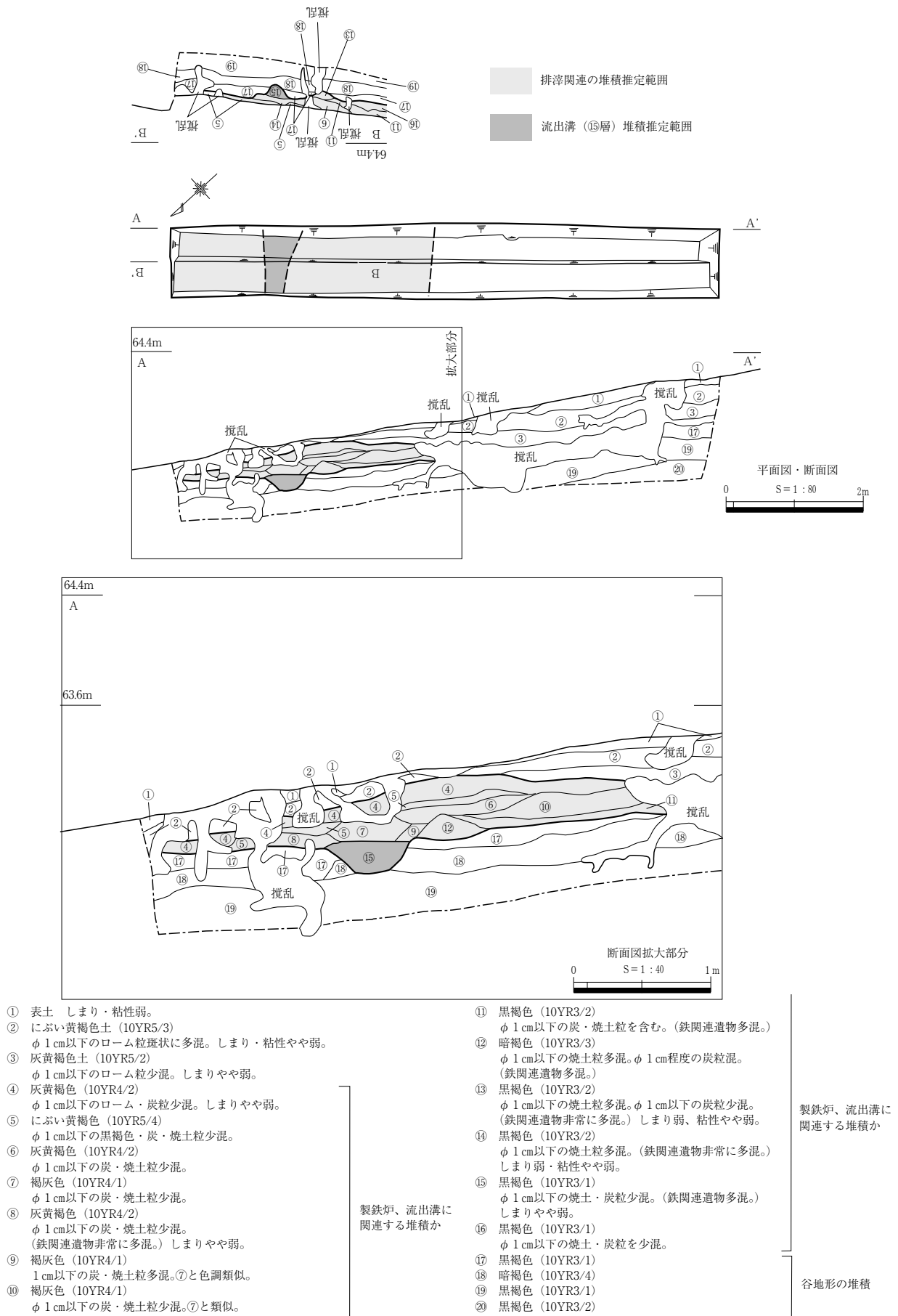
### Tr.13(第59図、表17、PL.31・35)

2区の西寄り、尾根部平坦面に設定した。西側の谷地形へ続く斜面部の手前に位置する。表土及び攪乱土(①・②層)下には灰黄褐色を呈する堆積(③層)が認められ、尾根部中央から東寄りにかけて堆積する黒褐色系のクロボク(基本層序Ⅱ層)はみられない。以下、漸移層(④層)を挟み基盤層である始良丹沢火山灰に由来する⑤層(基本層序Ⅴ層)が堆積する。遺構の検出については、③層を明瞭に掘り込む遺構が本トレンチでは確認されず、④層及び⑤層において行った。

遺構は、トレンチ中央西寄りでピットを1基(P1)確認した。掘方上位を攪乱により失う。遺物は出土していない。また、トレンチ西側で帯状に基盤層が硬化した面を検出したが、当該部分は現在も使用されている簡易な山道で、硬化面はその通行に起因するものと考えられる。

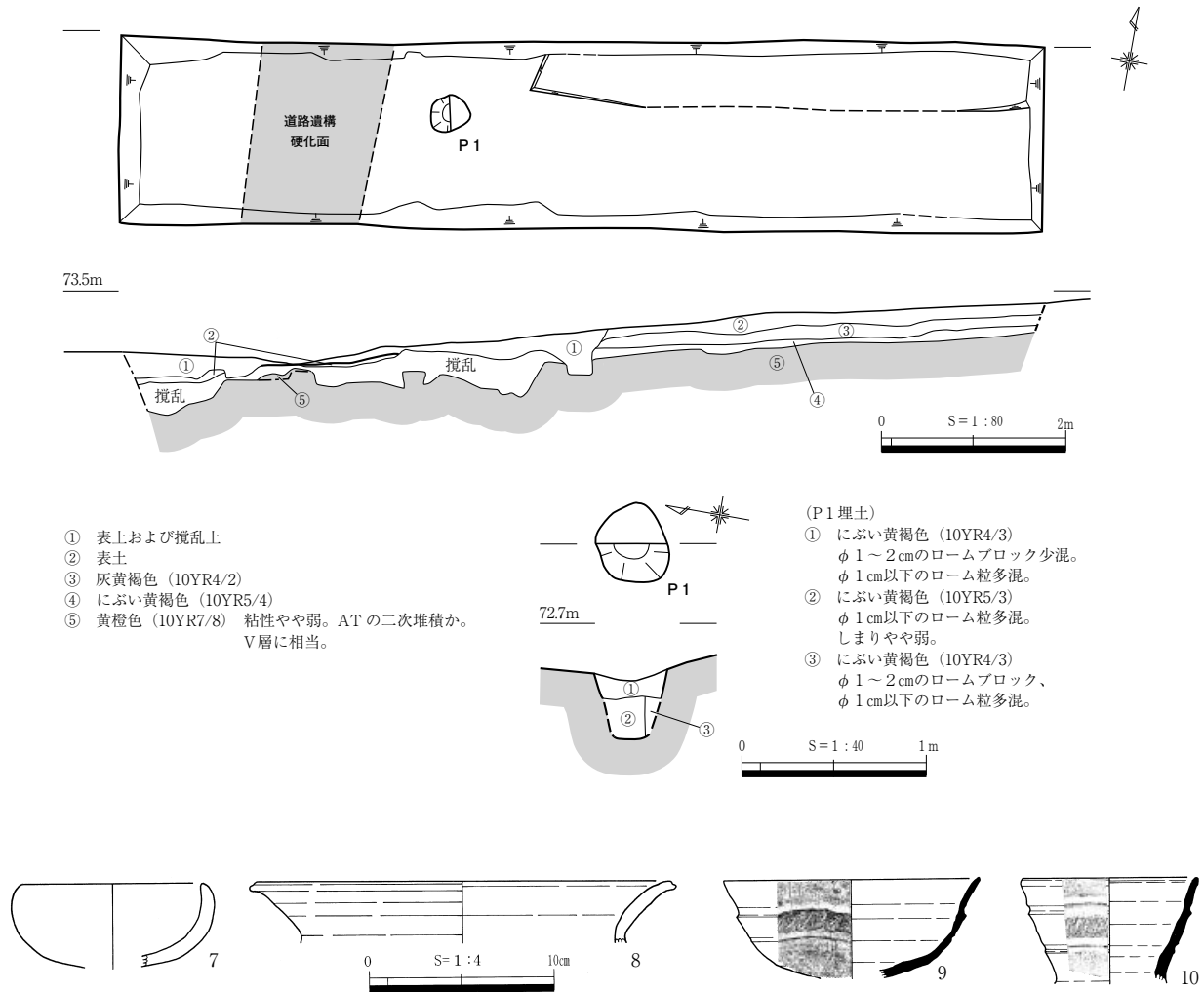
遺物は表土及び攪乱土からの出土が主で、③層からも若干数出土した。出土土器のうち4点を掲げ

第4章 確認調査の概要



第58図 Tr. 8





第59図 Tr.13及び出土土器

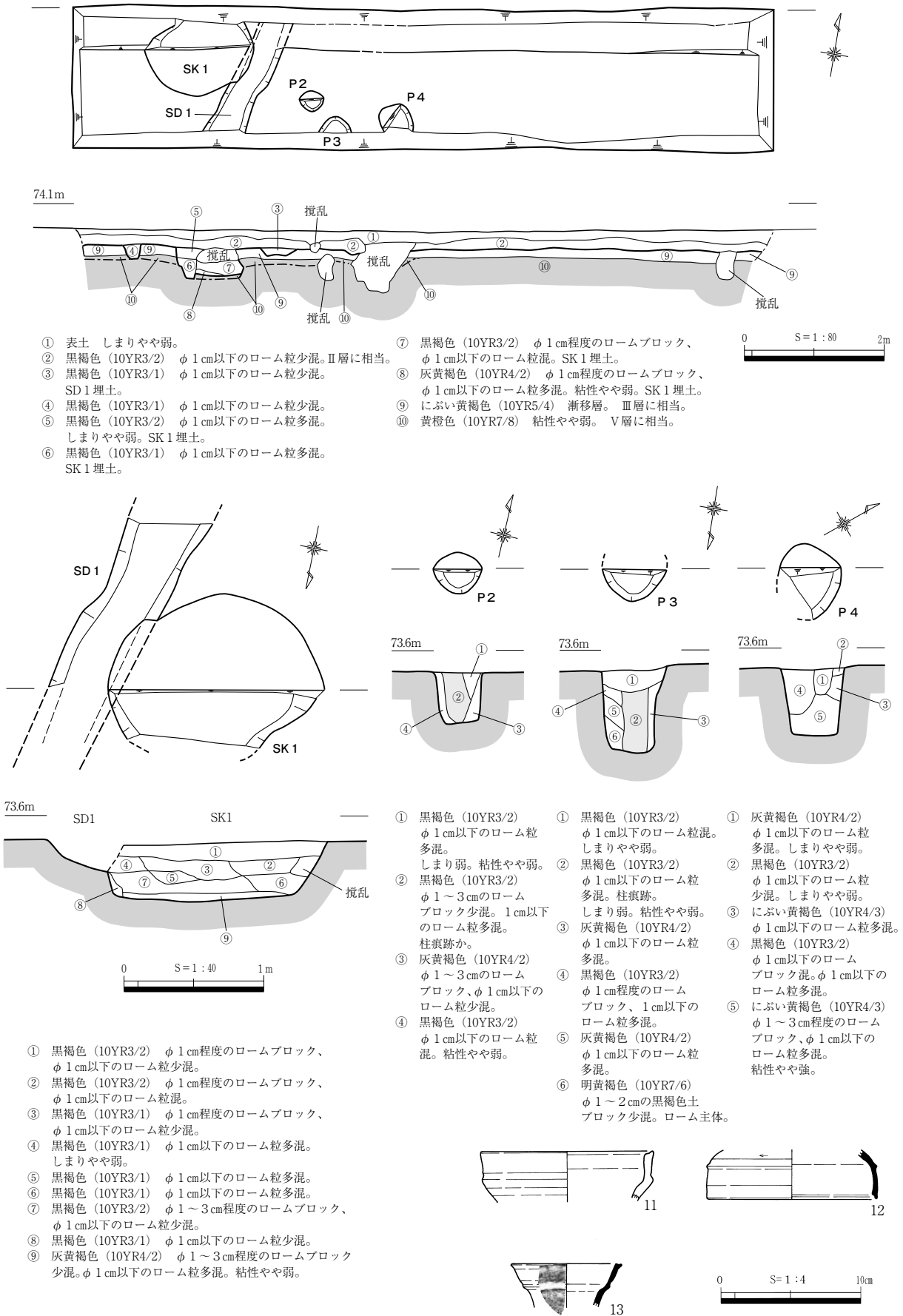
た。7・8は土師器である。7は脚付椀。内湾しながら緩やかに立ち上がる坏部が遺存する。8は土甕である。大きく外方へ開く口縁部資料で「く」字状を呈するとみられる。9・10は須恵器である。9は無蓋高坏の坏部。器壁が薄手でシャープなつくりである。10は口縁部から頸部の資料で、短頸壺か。頸部外面に波状文が施される。

Tr.12(第60図、表17、PL.32・35)

2区のはほぼ中央、尾根部平坦面に設定した。本トレンチ周辺は現況で尾根部の最高所にあたる。表土(①層)下の②層が基本層序のⅡ層に相当する。漸移層(⑨層)を経た⑩層が基盤層で、始良丹沢火山灰(AT)に由来する基本層序におけるV層である。

本トレンチでは土坑を1基(SK1)、溝状遺構を1条(SD1)、ピットを3基(P2~4)を検出した。いずれの遺構も検出面は⑨層上面である。土層断面観察では判然としないが、遺構埋土は色調の類似からⅡ層に由来することは明らかで、本来の掘り込み面はⅡ層中にあると想定される。SD1とSK1は一部重複しており、SD1がSK1を掘り込んでいることを確認した。

SK1はトレンチ西寄りに位置し、平面形は歪な円形である。掘方の東隅をSD1に掘り込まれる。検出面における規模は、長軸約1.4m、短軸約1.2m、深さは40cm程度である。埋土はⅡ層由来の黒褐



第60図 Tr.12及び出土土器

色が主体となる。埋土の約半分を掘り下げ、古墳時代の土師器甕(第60図11)が出土している。

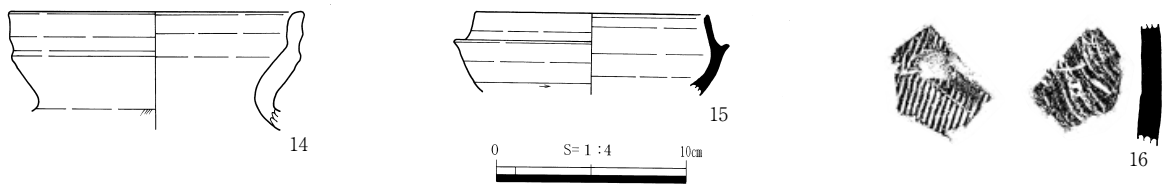
SD 1はトレンチ西寄りに位置し、SK 1の掘方をかすめるようにほぼ南北に走向する。検出面における幅は約50cm、深さは15cm程度だが、掘方は逆台形を呈する。埋土は黒褐色系の単層で、出土遺物が無く帰属時期は不明である。

P 2～4はトレンチ中央やや西寄りにおいて近接して検出した。いずれも埋土色調は黒褐色系を主体とする。P 3は明瞭な柱痕跡が確認でき、周辺に掘立柱建物跡が存在することを示唆する。

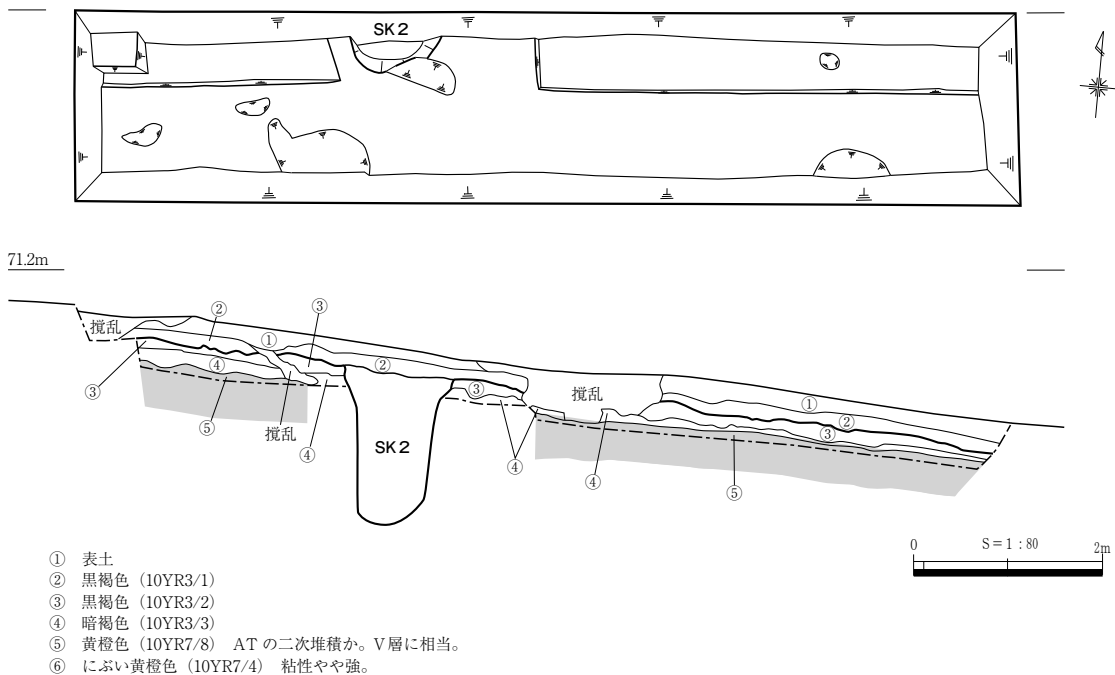
遺物は表土中からの出土が多数を占め、②層からも出土がある。11はSK 1から出土した土師器の甕である。鈍い段を有し直立する口縁部を持ち、口唇部は内傾する端面を持つ。12・13は須恵器である。12は坏蓋で、肩部に稜を持ち口縁部はほぼ直立する。口唇部は内傾度のやや強い端面を持つ。陶邑編年MT15併行期に相当すると考えられる。13は甗である。頸部から口縁にかけての資料で、外面には波状文が施される。

### Tr.11出土土器(第61図、表17、PL.35)

Tr.12の東側、尾根部ほぼ中央に設定したTr.11からは遺構は確認されなかったが、表土中を中心に遺物が一定数出土したため一部であるが掲載する。14は土師器の甕である。直立する有段口縁部で口唇部は外傾する端面を持つ。15・16は須恵器で、15は坏身である。口縁部は内傾し、端部は内傾する



第61図 Tr.11出土土器



- ① 表土
- ② 黒褐色 (10YR3/1)
- ③ 黒褐色 (10YR3/2)
- ④ 暗褐色 (10YR3/3)
- ⑤ 黄橙色 (10YR7/8) ATの二次堆積か。V層に相当。
- ⑥ にぶい黄橙色 (10YR7/4) 粘性やや強。

第62図 Tr.14

段を有する。陶邑編年MT15併行期に相当すると考えられる。16は甕の胴部片。外面平行叩き、内面は同心円状の当て具痕が残る。

Tr.14(第62図、PL.33)

丘陵尾根部の東側縁辺に設定したトレンチで、東側の狭隘な谷(1区)に向けて緩やかに降る地形を示す。表土下の②・③層は基本層序Ⅱ層に対応する。漸移層を経た⑤層は基盤層で、始良丹沢火山灰(AT)の二次堆積層と考えられる。遺物は表土から土器片が若干数出土したが、西隣のTr.11~13などと比較すると量は非常に少ない。

トレンチ北壁に接して土坑を1基(SK2)確認した。土層断面観察により、④層まで掘方が立ち上がることを確認できたが、土坑埋土とベース層の色調が酷似するため、掘り込み面が③層に至るかどうかは判然としない。

SK2は、トレンチ際での検出のため平面形態がはっきりしない。埋土をほぼ底面まで掘り下げたが、深さは1.5m程度あり、断片的な掘り下げにとどめたが規模から落とし穴の可能性が高い。埋土からは遺物は出土していない。

表17 出土土器観察表

| 遺物番号 | 取上番号 | 遺構地区層位名            | 挿図番号 | PL番号 | 種類器種        | 法量 (cm)                                 | 手法上の特徴   | 胎土  | 焼成       | 色調                       | 備考 |
|------|------|--------------------|------|------|-------------|---|--|-----|----------|--------------------------|----|
| 1    | 54   | Tr.6<br>攪乱土        | 56   | 35   | 縄文土器<br>深鉢  | 器高 7.9△                                 | 外面押型文、楕円文。<br>内面粗雑なナデ、摩耗のため不明瞭。  | 密   | 良好       | 外面橙～にぶい褐色<br>内面にぶい黄褐色    |    |
| 2    | 5    | Tr.6<br>旧耕作土       | 56   | 35   | 縄文土器<br>深鉢  | 器高 4.6△                                 | 外面押型文、楕円文。<br>内面粗雑なナデ。   | 密   | 良好       | 外面にぶい褐色<br>内面浅黄褐色        |    |
| 3    | 83   | Tr.21<br>表土        | 56   | 35   | 縄文土器<br>深鉢  | 器高 4.2△                                 | 外面捺糸文。<br>内面ナデ。  | 密   | 良好       | 外面にぶい黄褐色～<br>褐灰色<br>内面橙色 |    |
| 4    | 81   | Tr.20<br>表土        | 56   | 35   | 縄文土器<br>深鉢  | 器高 4.3△                                 | 外面口縁部刻目突帯、以下ナデ、ケズリ。<br>内面ナデ?、風化進行。                                     | やや粗 | やや<br>良好 | 内外面黄灰色                   |    |
| 5    | 81   | Tr.20<br>表土        | 56   | 35   | 弥生土器<br>甕   | 器高 4.5△                                 | 外面口縁部貼付突帯、1条沈線、ナデ。端部に刻目。<br>内面ナデ。                                      | 密   | 良好       | 内外面浅黄色                   | 前期 |
| 6    | 44   | Tr.7<br>SI1<br>埋土  | 57   | 35   | 土師器<br>甕形土器 | 器高 5.7△                                 | 外面ナデ。<br>内面ナデ、指押さえ。  | 密   | 良好       | 内外面にぶい橙色                 |    |
| 7    | 8    | Tr.13<br>表土        | 59   | 35   | 土師器<br>脚付椀  | 口径 9.6※<br>器高 4.5△                      | 外面ミガキの痕跡がわずかに残る。<br>内面ヨコナデ。  | 密   | 良好       | 外面橙色<br>内面浅黄色            |    |
| 8    | 15   | Tr.13<br>黒褐色土      | 59   | 35   | 土師器<br>甕    | 口径 22.4※<br>器高 3.35△                    | 内外面ヨコナデ。   | 密   | 良好       | 内外面橙色                    |    |
| 9    | 8    | Tr.13<br>表土        | 59   | 35   | 須恵器<br>無蓋高坏 | 口径 13.8※<br>器高 5.3△<br>立ち上がり<br>高 1.95※ | 外面上半波状文。坏部口縁～下半上部回転ナデ。<br>下半下部回転ヘラケズリ、切込み。ほぼ全体に自然<br>釉附着。<br>内面坏部回転ナデ。 | 密   | 良好       | 外面灰色<br>内面青灰色            |    |
| 10   | 8    | Tr.13<br>表土        | 59   | 35   | 須恵器<br>壺?   | 口径 9.5※<br>器高 5.7△<br>立ち上がり<br>高 1.95※  | 外面中位に波状文。回転ナデ。<br>内面回転ナデ。  | 密   | 良好       | 外面青灰～灰色<br>内面灰色          |    |
| 11   | 71   | Tr.12<br>SK1<br>埋土 | 60   | 35   | 土師器<br>甕    | 口径 12.2※<br>器高 3.6△                     | 内外面口縁～頸部ヨコナデ。  | 密   | 良好       | 内外面にぶい橙色                 |    |
| 12   | 7    | Tr.12<br>表土        | 60   | 35   | 須恵器<br>坏蓋   | 口径 12.1※<br>器高 3.5△<br>立ち上がり<br>高 2.4   | 外面回転ナデ、上部ケズリ。<br>内面回転ナデ。   | 密   | 良好       | 内外面灰色                    |    |
| 13   | 11   | Tr.12<br>表土        | 60   | 35   | 須恵器         | 口径 7.1※<br>器高 3.1△                      | 外面波状文、回転ナデ。<br>内面回転ナデ、自然釉附着。   | 密   | 良好       | 内外面灰色                    |    |
| 14   | 10   | Tr.11<br>黒褐色土      | 61   | 35   | 土師器<br>甕    | 口径 15.4※<br>器高 6.2△                     | 内外面口縁～頸部ヨコナデ。  | 密   | 良好       | 内外面褐色                    |    |
| 15   | 14   | Tr.11<br>黒褐色土      | 61   | 35   | 須恵器<br>坏身   | 口径 12.2※<br>器高 4.2△<br>立ち上がり<br>高 1.6   | 外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ。<br>内面回転ナデ。   | 密   | 良好       | 内外面灰色                    |    |
| 16   | 6    | Tr.11<br>表土        | 61   | 35   | 須恵器<br>甕    | 器高 4.9△                                 | 外面平行タタキ。<br>内面同心円状当て具痕。  | 密   | 良好       | 内外面灰色                    |    |

## 第5節 石井垣上河原遺跡の調査

調査地点 西伯郡大山町石井垣313-4

調査期間 平成22年10月5日～10月21日

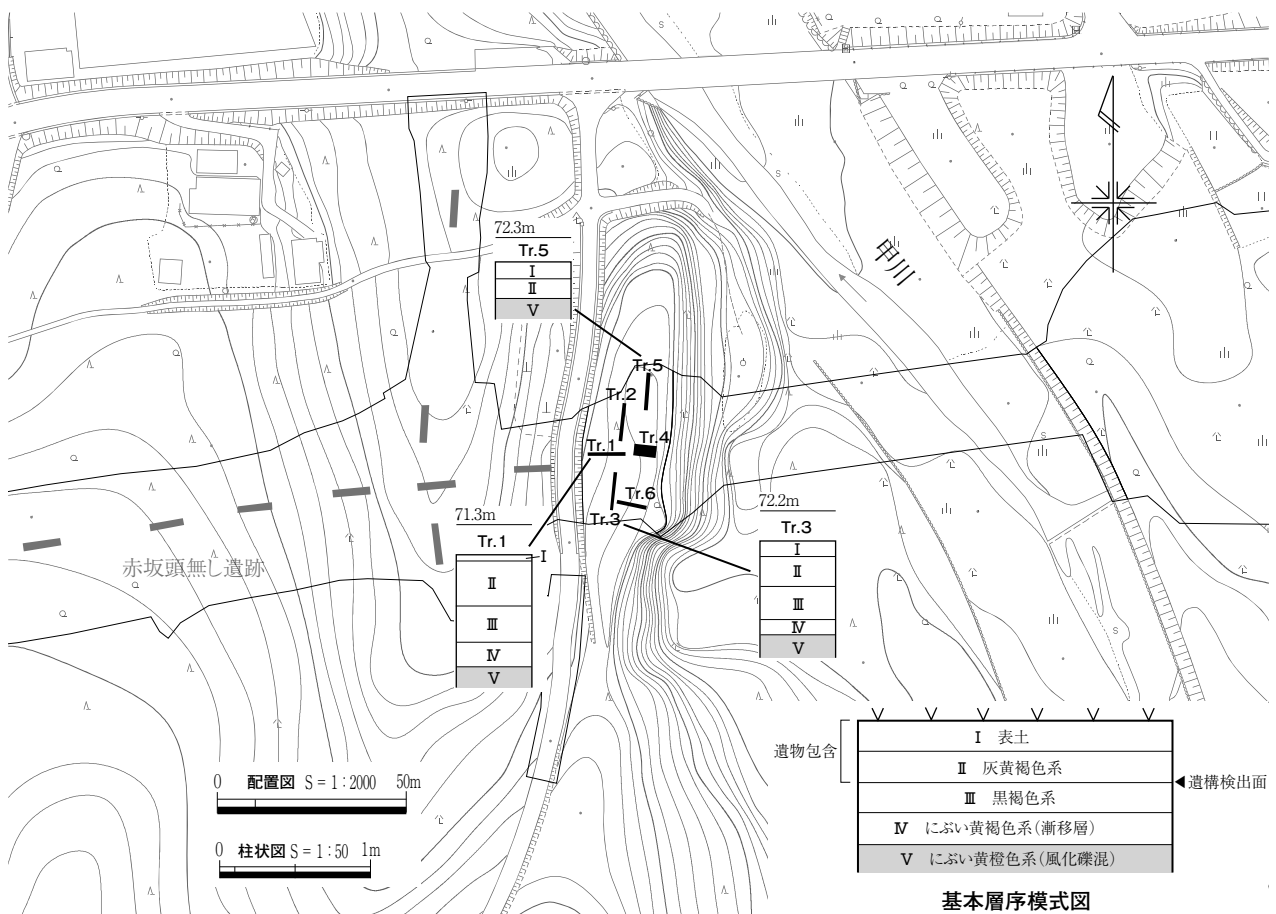
調査面積 66㎡

### 調査概要(第63～67図、表18～20、PL.36～39)

石井垣上河原遺跡は、甲川左岸の狭小な丘陵上に位置する。調査対象地は、狭い丘陵尾根部と西側の赤坂頭無し遺跡へと続く斜面部から成る。その斜面中腹には南北方向に町道が敷設されており、赤坂頭無し遺跡との境界となる。東側は崖状の急斜面で、地滑りのためか斜面がオーバーハングしている箇所も認められ、斜面下には甲川が流れている。調査地の地目は山林で、ヒノキの植林地となっている。標高は約70～73mである。

開発予定地内に6本のトレンチを設定して調査を行った。調査の結果、遺物包含層を1層、丘陵尾根部において石列及び集石3基、土坑1基を確認した。

調査地内の堆積は、表土(I層)下に灰黄褐色を呈する堆積(II層)がみられる。II層は樹木根による土壌化が進行しており、締まりが弱い。続くIII層は黒褐色を呈し、斜面部で特に顕著に認められる。西側の赤坂頭無し遺跡の谷部堆積と対応するものと思われる。漸移層(IV層)を経て、V層が火山性碎屑物層で、基盤層となる。風化小礫を多く包含し締まりが弱く、火砕流由来と考えられる。



第63図 トレンチ配置及び基本層序柱状図

表18 トレンチ一覧

| トレンチ | 規模<br>(m) | 面積<br>(㎡) | 確認した遺構             |                      |                            | 確認した遺物包含層 |              |                   | その他出土遺物    |              |                               | 確認した<br>遺構面数等 | 遺構検出層位 |
|------|-----------|-----------|--------------------|----------------------|----------------------------|-----------|--------------|-------------------|------------|--------------|-------------------------------|---------------|--------|
|      |           |           | 遺構名                | 出土遺物                 | 遺構の時期                      | 層位名       | 出土遺物         | 時期                | 出土層位名      | 遺物名          | 時期                            |               |        |
| Tr.1 | 1×10      | 10        | -                  | -                    | -                          | -         | -            | -                 | I層・<br>攪乱土 | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期             | -             | -      |
| Tr.2 | 1×10      | 10        | -                  | -                    | -                          | II層       | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期 | I層         | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期             | -             | -      |
| Tr.3 | 1×10      | 10        | -                  | -                    | -                          | II層       | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期 | I層         | 黒曜石製石器       | 縄文時代？                         | -             | -      |
| Tr.4 | 3×6       | 18        | 石列・<br>溝状遺構<br>SK1 | 弥生土器・<br>土師器<br>縄文土器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期<br>縄文時代？ | -         | -            | -                 | I層・<br>攪乱土 | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期             | 1面            | III層上面 |
| Tr.5 | 1×10      | 10        | -                  | -                    | -                          | -         | -            | -                 | I層・<br>攪乱土 | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代後期後葉<br>弥生時代終末～<br>古墳時代前期 | -             | -      |
| Tr.6 | 1×8       | 8         | 集石                 | -                    | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期？         | II層       | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期 | I層         | 弥生土器・<br>土師器 | 弥生時代終末～<br>古墳時代前期             | 1面            | III層上面 |
| 面積合計 |           | 66        |                    |                      |                            |           |              |                   |            |              |                               |               |        |

遺物はI・II層で出土したが、III層では出土していない。遺構については、II層を掘り込んだものは無く、III層が遺構検出面になると現状では考えられる。遺構を確認したのは、尾根部に設定したTr.4・6で、斜面部のTr.1～3では認められなかった。遺物の出土量も遺構の検出状況に対応しており、斜面部西寄りになるほど遺物分布は希薄となる。

遺構は、Tr.4において不明瞭な箇所はあるものの溝を伴う石列2基、落とし穴と目される土坑1基、Tr.6では集石状の礫群を1基検出した。遺物は、弥生時代終末期～古墳時代前期にかけての土器が目立ち、石列を検出したTr.4を中心に各トレンチから出土している。尾根部北寄りのTr.5では、弥生時代後期後葉の土器が断片的ながら出土した。その他では、縄文土器片、黒曜石製石器を少数ながら確認した。

Tr.4・6で見つかった石列及び集石は、甲川の河原石を主に用いていると考えられる。狭小な尾根部という立地環境と出土土器の年代観から、石列や礫群は墳墓に伴う可能性が高い。

以下、遺構を検出したトレンチの概要を述べる。その他のトレンチの調査結果についてはトレンチ一覧(表18)を参照されたい。

**Tr.4 (第64・65図、表18・19、PL.36～38)**

調査対象地における尾根部ほぼ中央に設定した。当初、トレンチを2m×6mで設定し調査に着手したところ、II層を掘下げ中に不整ながら列状に並ぶ礫群を検出した。そこで、礫群の詳細を確認するため、トレンチの短辺を1m拡張した。

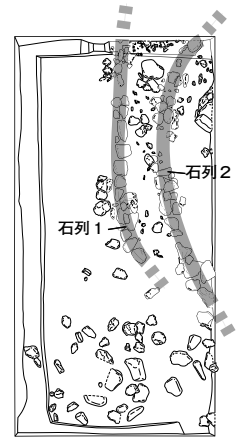
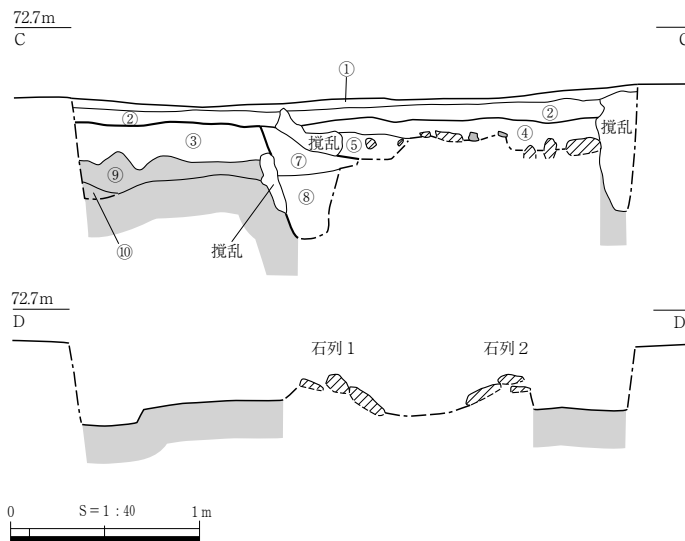
その結果、概ね東西方向にほぼ並行して延びる石列2基を確認した(第64図)。ここでは南側の並びを石列1、北側の並びを石列2と呼称する。調査対象地は先述のとおりヒノキの植林地で、樹木根が縦横に延びており、こと石列を形成する礫群に関しては二次的な移動が顕著であり、遺存状況は良好とは言えない。特にトレンチ東半にはヒノキに加え竹が自生しており、著しい攪乱を受け礫が散乱し石列1・2共に状況が不明となる。

両石列が延びるトレンチ西壁において土層断面を確認すると(C-C'ライン)、石列は溝状の落ち込みを伴うことが判明した(④・⑤層)。④・⑤層中には石列に伴う礫のほかに小礫や土器片(第65図2～4)を密に検出した。それ以上の掘削は控えて今後の本発掘調査に委ねることとしたため、堆積の細分等詳細は現時点では不明だが、④層は西壁北半に確認できるため両石列に伴う溝がトレンチ西壁

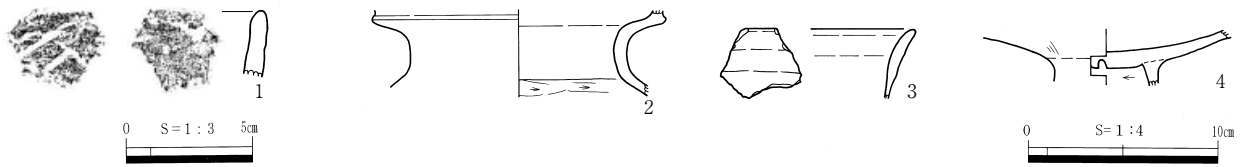


- ① 表土。土器包含。
- ② 灰黄褐色 (10YR5/2) 土壌化の影響を受ける。土器包含。II層に相当。
- ③ 黒褐色 (10YR3/2) 地山由来のφ1cm程度の小礫混。III層に相当。
- ④ 灰黄褐色 (10YR4/2) φ1~3cm程度の小礫混。土器包含。溝埋土。
- ⑤ 褐色 (10YR4/4) φ1cm~拳大の礫多混。土器包含。溝埋土。
- ⑥ 暗褐色 (10YR3/3) 根の影響で土壌化。しまり・粘性やや弱。
- ⑦ 黒褐色 (10YR3/2) 地山由来のφ1~3cm程度の小礫混。
- ⑧ 黒褐色 (10YR3/1) 地山由来のφ1~3cm程度の小礫混。
- ⑨ にぶい黄褐色 (10YR4/3) φ1~3cm程度の小礫混。粘性やや弱。
- ⑩ にぶい黄褐色 (10YR6/4) 風化礫を多混。東側は岩盤状となる。

- ④・⑤…溝状掘り込み埋土
- ⑦・⑧…SK 1埋土
- ⑨・⑩…基盤層



第64図 Tr. 4



第65図 Tr. 4 出土土器

にかかっていると想定できる。石列2の遺存状態が不良ながら、各礫は概ね斜めに立つ様子が窺え(D-D'ライン)、溝掘方の肩に礫を貼るような手法が想定される。このような石列を伴う溝状遺構は、墳墓の区画溝の可能性が高いと考える。

ほぼ東西に延びる石列1・2は若干軸を異にするようにも見えるが、東端で北東方向を指向する点で共通する。掘削が不十分なため判断材料に欠けるが、①石列1・2それぞれに伴う溝が重複し並走する、②石列1・2は一条の区画溝の掘方各肩部に伴う、といった2通りを現時点では想定しておきたい。墳墓の区画溝として言い換えると、①先後関係は不明だが石列1以南、石列2以北の墳墓2基が存在する、②石列1・2が伴う溝以北に墳墓1基が存在する、となる。

その他の遺構は、トレンチ西壁において区画溝掘方に掘り込まれた土坑と思われる落ち込み(SK1)を確認した(第64図⑦・⑧層)。石列下にあるため一部の掘り下げに留まったが、深さは50cm以上はあり、落とし穴の可能性がある。埋土中から縄文土器片(第65図1)が出土している。

第65図に本トレンチ出土土器を示した。1は縄文土器の深鉢である。外面調整は非縄文で、ヘラを用いている。帰属時期についてははっきりしない。2～4は石列2付近から出土した資料である。2は複合口縁を持つ壺。3は鼓形器台の口縁部片と思われる。4は高坏である。2～4の年代観は弥生時代終末期～古墳時代前期初頭に該当すると考える。

#### Tr. 6 (第66図、PL.38)

調査対象地における尾根部南寄り、東西方向に1 m × 8 mのトレンチを設定した。Tr. 4と同様にトレンチ東半の攪乱が著しく、土壌化の進行した②層下は基盤層である⑦層(基本層序V層)が露出する。トレンチ西半は比較的遺存状態が良く、③層(基本層序II層)、⑤層(基本層序III層)が堆積する。

トレンチ西端の③層下付近において、集石状の礫群を検出した。トレンチ壁面で土層断面を観察すると、⑤層を掘り込む形で浅い落ち込み(④層)が認められ、礫群を包含することが窺えた。礫群の範囲はトレンチ外へ続くが、検出した範囲を見る限りでは礫の配置は雑然としており、規格性は見出せない。礫群に伴う遺物は出土しなかったため詳細は不明だが、Tr. 4で検出した石列と同様な礫を用いており、墳墓との関連性が高いと考えられるため掘削はここまでとし、詳細は本発掘調査に委ねることとした。

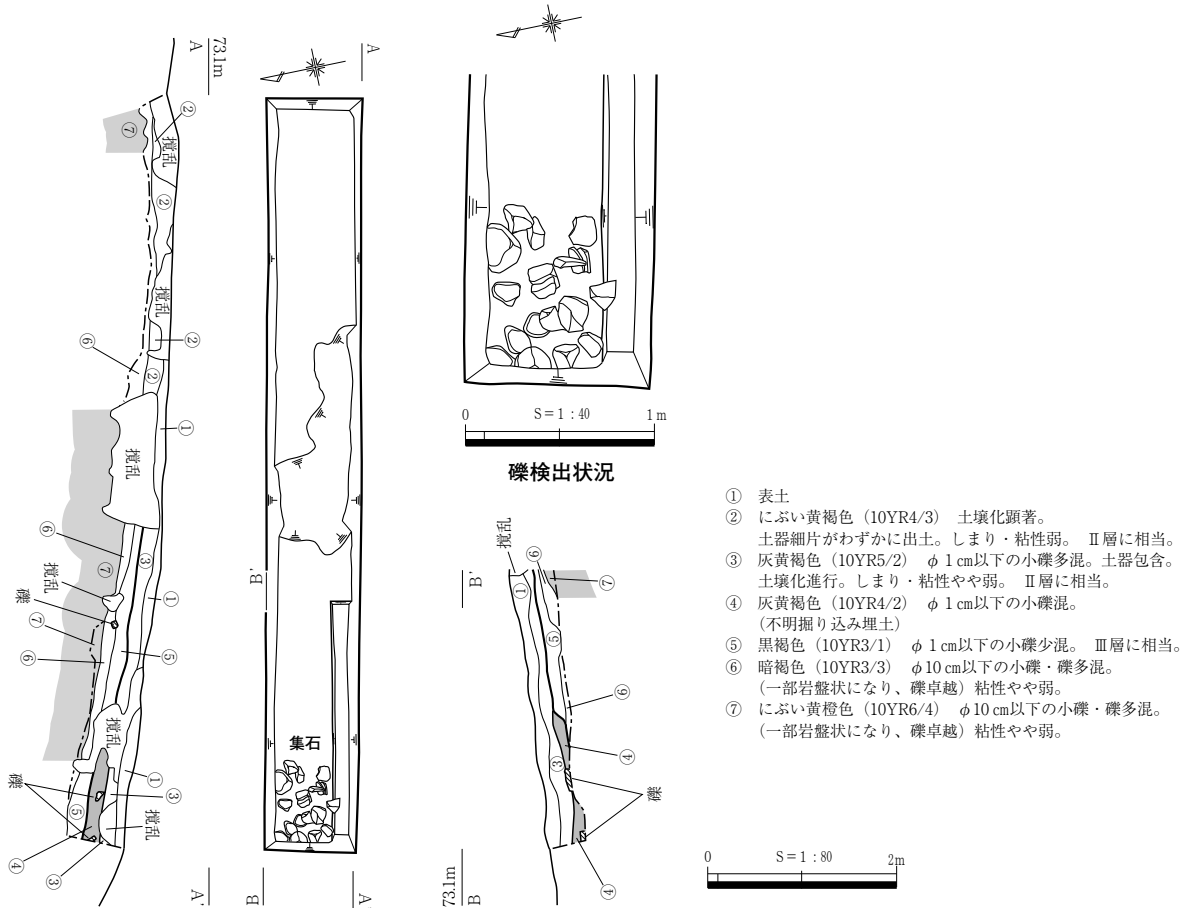
遺物は、表土及び②・③層から土器片が少数出土した。細片のため詳細は不明だが、他トレンチ出土土器と概ね同様な時期の資料と思われる。

#### Tr. 2・3・5 出土土器(第67図、表19・20、PL.39)

各トレンチで出土した遺物のうち、代表的な資料を図示した。

5は縄文土器の深鉢で、外面は縄文地となるが小片のため詳細は不明である。6は弥生土器の器台



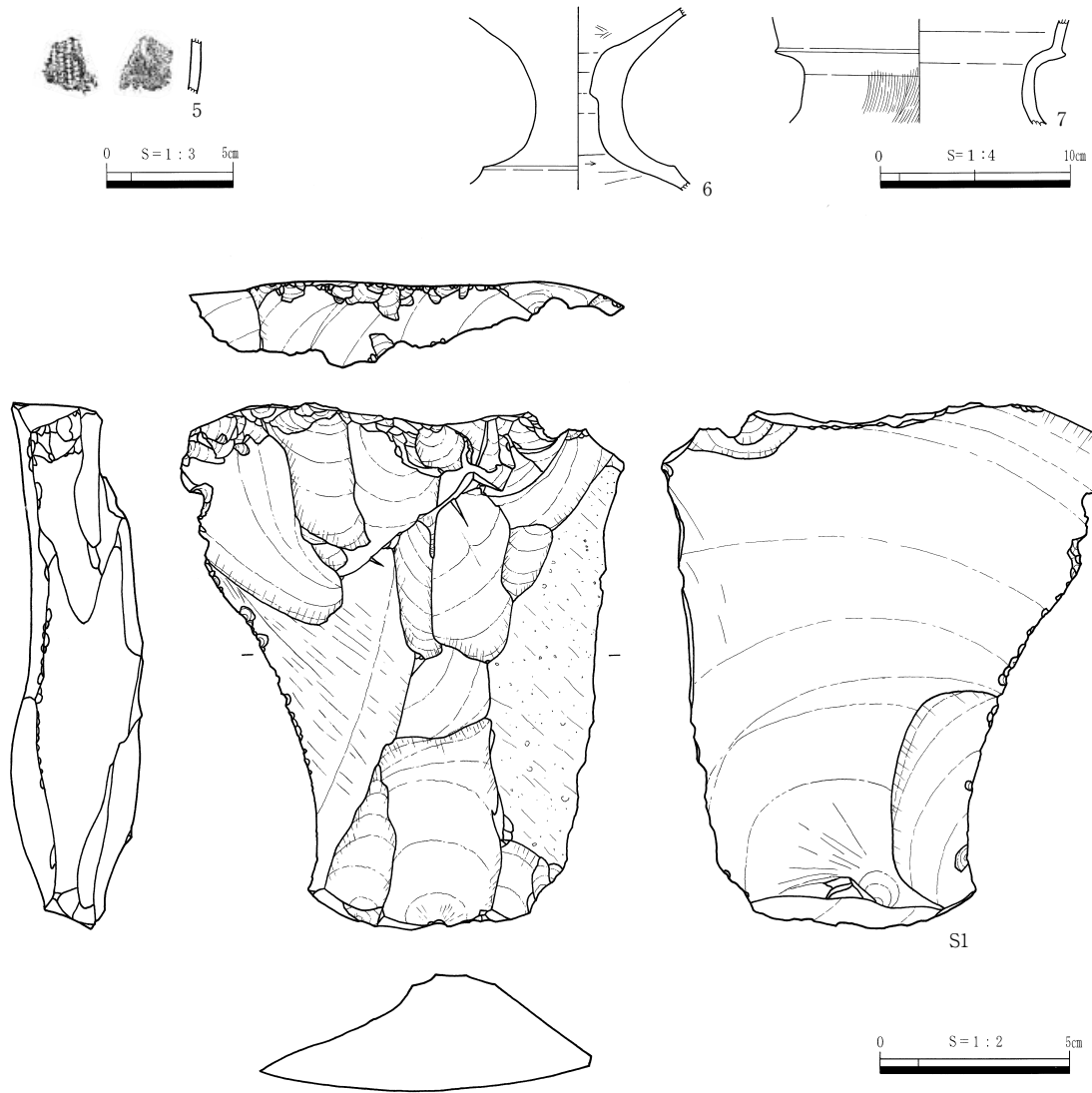


第66図 Tr. 6

である。筒部が遺存し、受部と脚部の大半を欠く。器面が著しく磨耗しているが脚部外面に平行沈線文の痕跡がわずかに窺え、弥生時代後期後葉に帰属すると考える。7は土師器の壺である。複合口縁の端部を失うが、やや外反気味に立ち上がると考えられる。口縁部下端の突出は鋭く、頸部にはタテハケが残る。弥生時代終末期～古墳時代前期初頭に帰属すると考える。

S1は黒曜石製石器で、大型の石核である。裏面を剥離面とする剥片の可能性を考えたが、当該面の風化が進行していることから、大型剥片を素材とする石核とする方が妥当と判断した。表面上・下面からの打撃により剥片作出を行っている。

第4章 確認調査の概要



第67図 Tr.2・3・5出土遺物

表19 出土土器観察表

| 遺物番号 | 取上番号  | 遺構地区層位名           | 挿図番号 | PL番号 | 種類器種       | 法量 (cm)  | 手法上の特徴   | 胎土  | 焼成 | 色調                          | 備考 |
|------|-------|-------------------|------|------|------------|----------|--|-----|----|-----------------------------|----|
| 1    | 27    | Tr.4<br>SK1<br>埋土 | 65   | 39   | 縄文土器<br>深鉢 | 器高 2.7△  | 外面非縄文、ヘラを使用。<br>内面ナデ。                          | 密   | 良好 | 外面褐灰～<br>にぶい灰黄褐色<br>内面にぶい褐色 |    |
| 2    | 31    | Tr.4<br>③層 (石列)   | 65   | 39   | 土師器<br>壺   | 器高 5.45△ | 内外面頸部横ナデ、風化著しい。                                | 密   | 良好 | 内外面にぶい黄橙色                   |    |
| 3    | 33    | Tr.4<br>③層 (石列)   | 65   | 39   | 土師器<br>器台? | 器高 3.7△  | 内外面受け部ナデ。                                      | やや密 | 良好 | 内外面にぶい黄橙色                   |    |
| 4    | 37    | Tr.4<br>③層 (石列)   | 65   | 39   | 土師器<br>高坏  | 器高 2.9△  | 外面坏部ミガキ、底面ナデ?、風化著しい。脚部上位ヘラケズリ。<br>内面風化著しく調整不明。 | 密   | 良好 | 内外面にぶい黄橙色                   |    |
| 5    | 2     | Tr.2<br>表土        | 67   | 39   | 縄文土器       | 器高 2.2△  | 外面縄文。<br>内面ナデ。                                 | 密   | 良好 | 外面明赤褐色<br>内面にぶい褐色           |    |
| 6    | 22・25 | Tr.5<br>表土・攪乱土    | 67   | 39   | 弥生土器<br>器台 | 器高 9.7△  | 外面風化が著しく調整不明。<br>内面坏部ミガキ、台部ヘラケズリ。風化著しい。        | やや密 | 良好 | 内外面にぶい黄橙～<br>明黄褐色           |    |
| 7    | 4     | Tr.3<br>表土        | 67   | 39   | 土師器<br>壺   | 器高 4.5△  | 外面口縁部ヨコナデ、頸部タテハケ。<br>内面口縁部～頸部ヨコナデ。             | 密   | 良好 | 内外面浅黄色                      |    |

表20 出土石器観察表

| 遺物番号 | 取上番号 | 遺構地区層位名    | 挿図番号 | PL番号 | 種類器種 | 石材  | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 備考      |
|------|------|------------|------|------|------|-----|----------|----------|----------|--------|---------|
| S1   | 3    | Tr.2<br>表土 | 67   | 39   | 石核   | 黒曜石 | 14.0     | 11.7     | 3.5      | 432.5  | 裏面が風化進行 |